

朝の礼拝

聖書 マタイ 7章 11節 (新約聖書 11頁)

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。

寄り添う

「人にしてもらいたいと思うこと」と聞いて、この「人」とは誰のことでしょう。もし「自分」だとすると「自分にしてもらいたいことは何でも、ほかの人にしなさい」となります。それでは自分の願いは何でも、ほかの人にしなさいとなります。これでは自分の願いがすべてで、自分が心地よい、自分の満足が中心になってしまいます。

逆に、この「人」を「ほかの人」だとすると「ほかの人にしてもらいたいと思うことは、あなたがたもほかの人にしなさい」となります。ほかの人にしてもらいたいとは何を意味しているのでしょうか。例えば身近な家族、友だちに置き換えてみれば、自分の話を黙って聞き、一緒に笑い、一緒に泣き、相手の立場に立って考え行動することです。

イエスは「これこそ律法と預言者である」と言っています。これこそあなただけの願いではなく、あなたとあなたの隣人が互いに愛し合う姿だと言っているのです。互いに切磋琢磨するからこそ、互いを慈しみ、互いを尊び、深く結ばれます。その交わりはたとえ離れるようなことがあっても、別れることがあっても悲しみに終わらない、永遠の交わりとなるのです。

人生には何度も、何度も出会いと別れが繰り返されます。でも最後に残るのは互いに愛し合った慰めと励ましです。イエスは幾度も幾度も病にある人びと、偏見と差別を受けた人びと、辛酸に耐える人びと、愛する家族を失った深い悲しみに寄り添いました。それは神様ご自身が御子イエス・キリストを通して、最も知りたかったことだったのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたの計り知れない御恵みに感謝します。少しずつ秋の訪れを感じつつ寒暖の差が激しい日が続きます。どうか心身共にいたわりながら過ごせますようにお守りください。前期の終わりの近づくきました。よきふり返りと後期の備えの時を与えてください。そしていまだ世界各地の災害、争いの厳しい環境にある人々を覚えて祈ります。どうかわたしたちを平和の器として用いてください。また本日姉妹校セント・マーガレット・スクールの皆さんと最後の日を迎え、帰国となります。短い間でしたが、互いの文化や生活を学び、親しく過ごせたことを心から感謝しています。特にホストファミリーの皆さん、バディを組んでくれた英和生たちに感謝します。どうか今後も姉妹校のよき交わりを与えてください。そして心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができますように導いてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン